

迎古  夢旅 4492 : 立待岬へ今一度 168

思いが叶った。津軽海峡に面した、立待岬^{たちまちみさき}の断崖絶壁。今一度、立ちたかった。

足元は積雪。どんな出会いがあるのか楽しみ。訪ねた時は、人も少ない。

天気の良い日には、内地の下北半島が見え、夜には津軽海峡のイカ釣り漁船の漁火が見られる。久業にはロマンの岬。与謝野鉄幹・晶子の歌碑もある。

坂の途中に、石川啄木一族のお墓もある。函館に来ると、訪ねたものである。

先人は、何を思い、どんな時間を過ごしたのか。



石川啄木の歌集「**一握の砂**」。

巻頭の歌。東海の小島の磯の白砂に、われ泣きぬれて、蟹とたわむる

砂山の砂に腹ばい、初恋の痛みを遠く、おもい出^{いず}
いのちなき砂のかなしさよ、さらさらと、握れば指のあいだより落つ。

頬をつたふ、なみだ、のごわず、

一握の砂を、示しし人を忘れず・・・と続く「一握の砂」

この日の天気は、さえず。しかし、訪ねてよかった。思いが走馬灯のように。

